

インフルエンザニュース

東京都立衛生研究所

目次

I 基礎知識

13年度インフルエンザ標語／インフルエンザの予防には／インフルエンザにかかったら

II 流行状況

患者発生状況／東京都公立学校の学級閉鎖状況／ウイルス検出状況

III 専門家向け情報

インフルエンザ抗体保有状況とウイルス検出状況

I 基礎知識

1 13年度インフルエンザ標語

厚生労働省は本年度の標語「**予防接種**という**選択**」を掲げて、今冬（平成13年11月から平成14年3月）のインフルエンザ対策に取り組むことになりました。

2 インフルエンザの予防には

- ・流行時期には人込みをさげましょう。
- ・外出時のマスク、帰宅時のうがいや手洗いは忘れずに。
- ・室内は、適度な温度と湿度の維持を心掛けましょう。
- ・バランスの良い食事を摂るように、気を配りましょう。
- ・疲労や睡眠不足は禁物です。
- ・高齢者におけるワクチン接種は重症化、死亡を防ぐ点で効果があります。なお、予防接種は、かかりつけ医と相談しましょう。

東京都立衛生研究所感染症情報センター

www.tokyo-eiken.go.jp/IDSC/

厚生労働省

www.mhlw.go.jp/

国立感染症研究所感染症情報センター

idsc.nih.go.jp/index-j.html

インフルエンザホームページ

influenza-mhlw.sfc.wide.ad.jp/

【インフルエンザ相談ホットライン】

開設時期：

平成13年11月12日～

平成14年3月29日迄

対応日時：月曜日～金曜日（祝日除く）

9:00～17:00

電話番号：03-5285-1231

FAX番号：03-5285-1233

e-mail：influenza@nih.go.jp

3 インフルエンザにかかったら

- ・単なるかぜと軽く考えず、早めに医療機関で受診し、治療を受けましょう。
- ・部屋の湿度を保ちましょう。
- ・安静と休養が肝腎です。睡眠は十分に。
- ・水分は十分に補給しましょう。

II 流行状況

1 患者発生状況

2月4日から2月10日までの都内の患者報告数は2,219人で、定点当たりの報告数も12.47人となり、先週から急増しました。

全国の報告数も86,185人(18.34人/定点)で、先週の約1.4倍に増加しました。

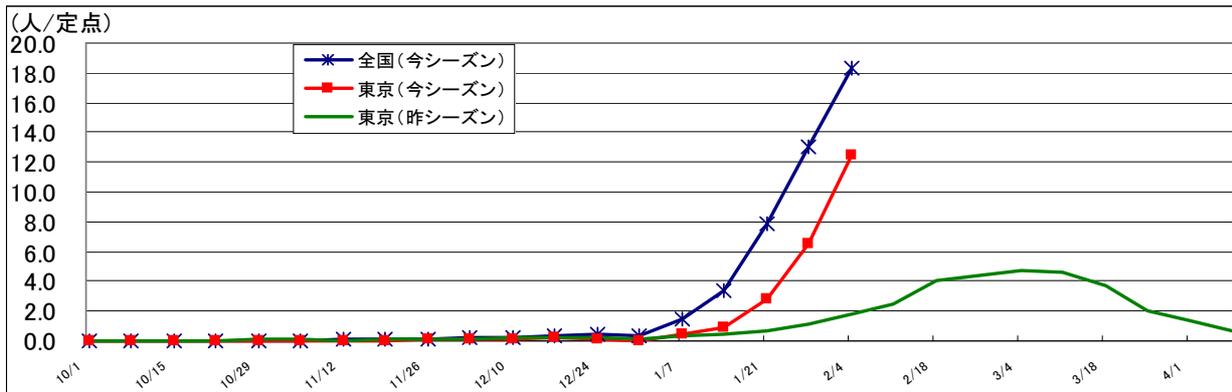
26区市町で学級閉鎖の報告がありました(図1参照)。

3 ウイルスの検出状況

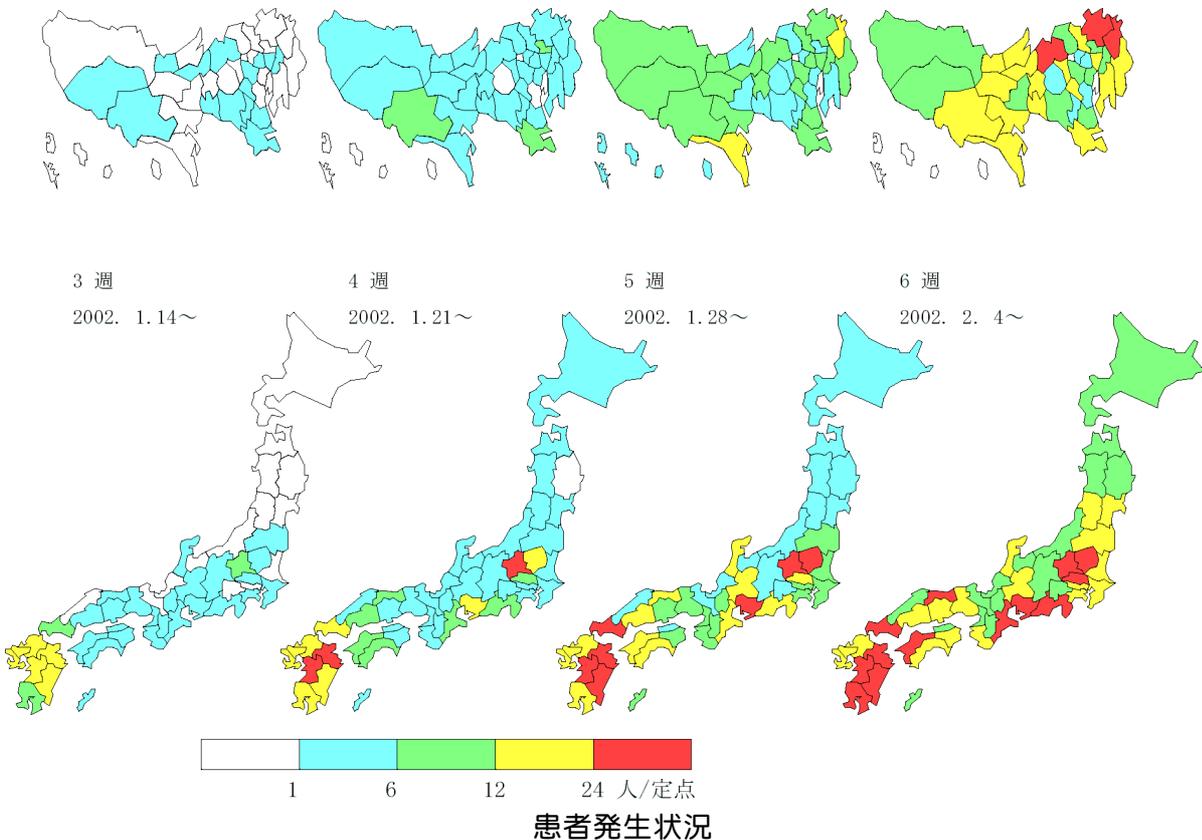
今シーズンのインフルエンザウイルス検出状況は、図2に示してあります。

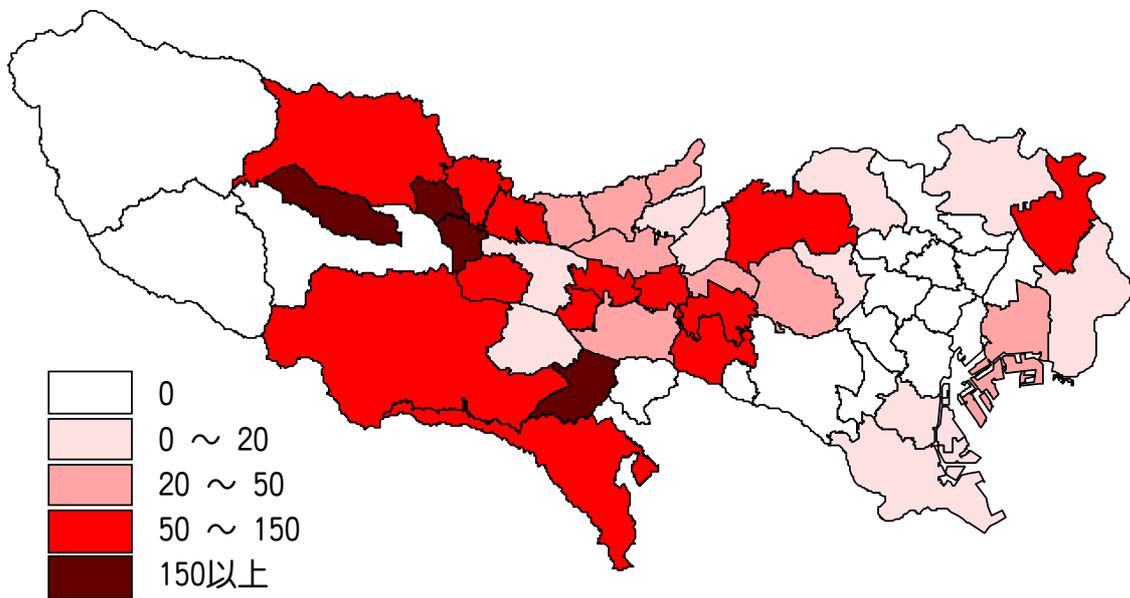
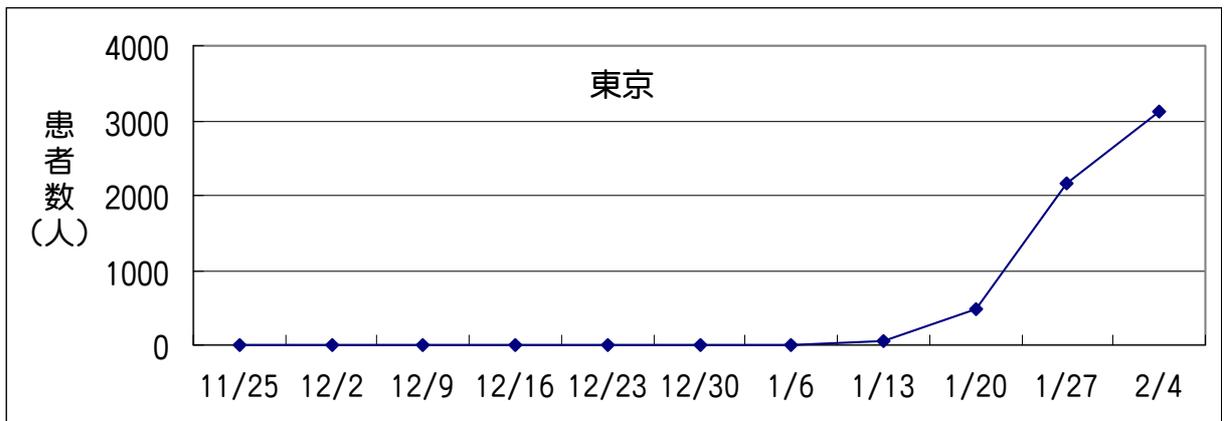
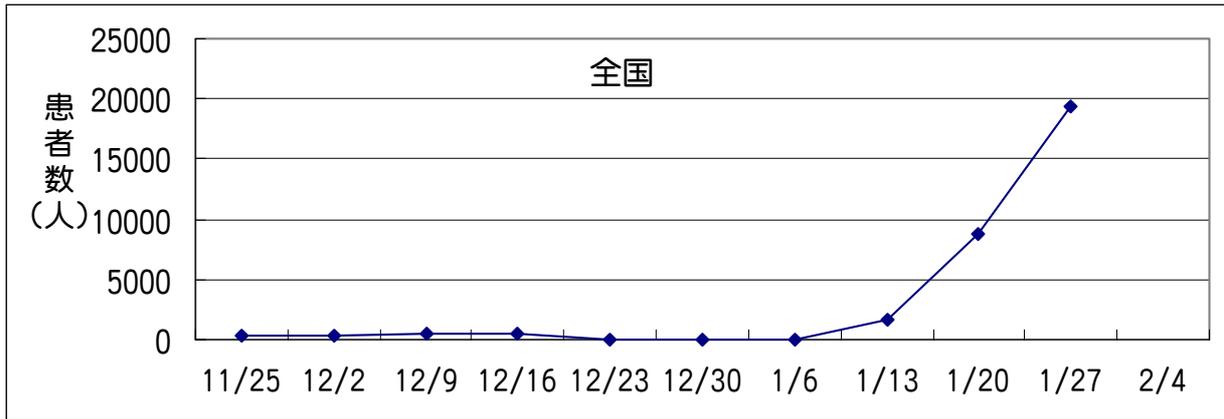
2 東京都公立学校の学級閉鎖状況

1月16日から学級閉鎖の報告が多くなってきました。1月25日から2月1日までに



(人/定点): 患者報告数を定点医療機関数(東京都178ヶ所、全国約5,000ヶ所)で除算した数値です。





(マップ：2002年2月1日から2002年2月8日の在籍者10,000人当たりの患者数)

図1 公立学校のインフルエンザ様疾患患者数

<感染症発生動向調査(IASR、IDWRなど)による>

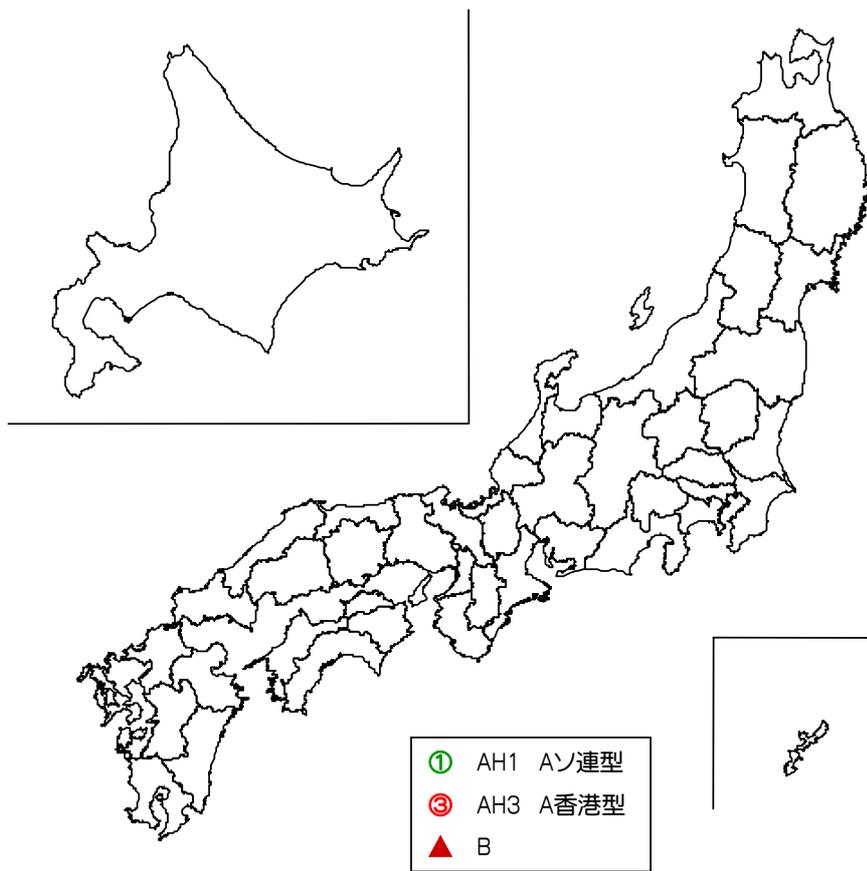
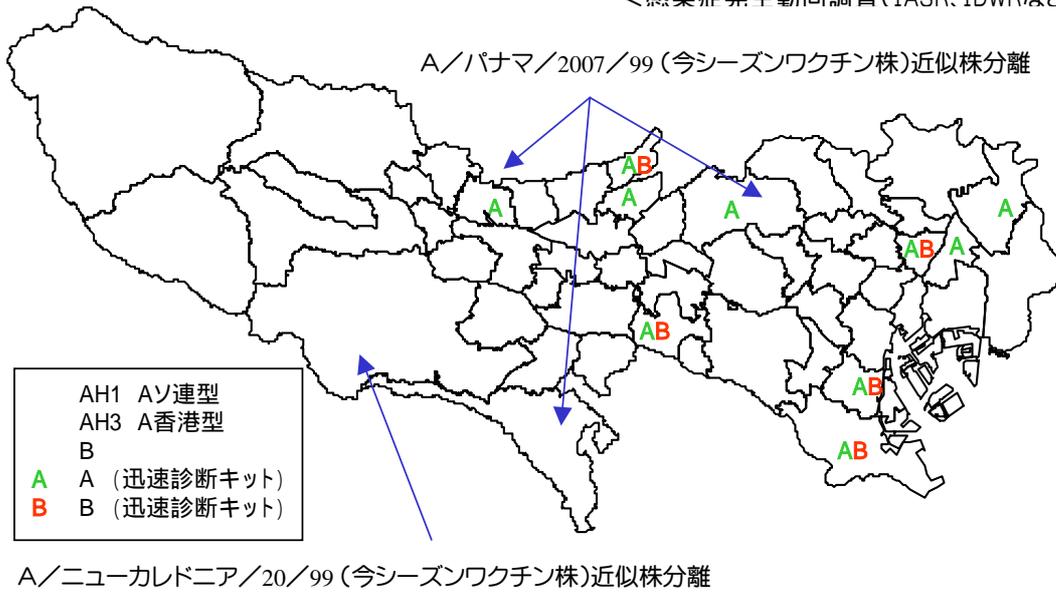


図2 今シーズンのインフルエンザウイルス検出状況

III 専門家向け情報

1 インフルエンザ抗体保有状況とウイルス検出状況

インフルエンザ抗体保有状況調査速報第2報 (IASR Vol.22 No.12) によると、2001年秋に実施した流行シーズン前の今季各ワクチン株に対する抗体 (HI抗体価40倍以上) 保有状況調査では、図3のように、A香港(H3N2)型 (A/Panama/2007/99)株に対する保有率は5歳から9歳をピークに10歳代でもやや高いが、その他の年齢層ではやや低い結果を示しました。この傾向はAソ連型 (A/New Caledonia/20/99)株に対する保有率でも同様に認められました。しかし両者を比較すると、すべての年齢域でAソ連型株に対する保有率がA香港型のそれを下回っており、とりわけ5歳から9歳と10歳代ではその差が顕著でした。B型 (B/Johannesburg/5/99)株に対しては10歳から19歳が比較的高くな

っていました。

一方、今季の年齢階級別のウイルス検出状況 (2001/10/9/～2002/1/31 まで) を図4に示しましたが、0歳から4歳ではA香港型、Aソ連型の両ウイルスが、ほぼ同じ割合で多数分離されているのに対し、5歳から49歳までの各年齢域ではAソ連型ウイルスの方がA香港型よりも多く分離されています。

今季に分離されたウイルスの抗原性状は、前号 (Vol.4 No.6) で紹介したように、A香港型とAソ連(H1N1)型はワクチン株と近縁であり、それぞれのウイルス分離比率は各年齢域での各ワクチン株に対する抗体保有率が低いほど、逆に大きくなる傾向が認められます。B型ウイルスの抗原性状はワクチン株とやや離れているためか、抗体保有率と、分離されたB型ウイルスの割合の間に、関係は認めにくくなっています。

編集・発行 東京都立衛生研究所

〒169-0073

東京都新宿区百人町 3-24-1

事務局 微生物部疫学情報室

Tel:03-3363-3213

Fax:03-5332-7365

Email:ids@tokyo-eiken.go.jp

ホームページ:www.tokyo-eiken.go.jp/IDSC/



古紙配合率70%再生紙を使用しています

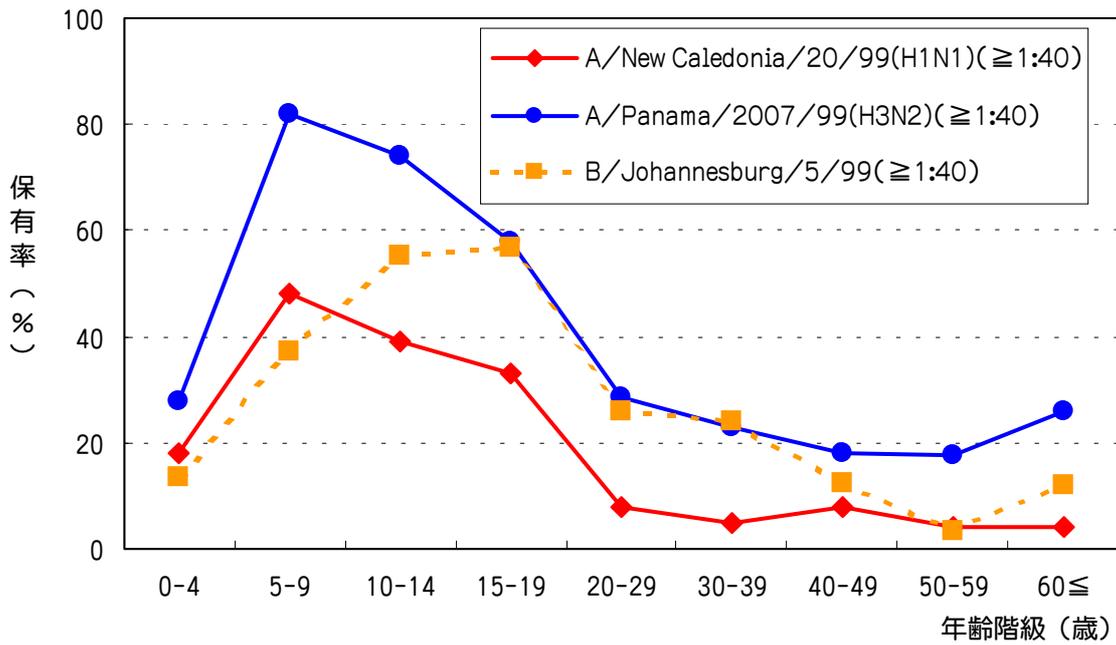


図3 2001/2002シーズンウイルス型別HI抗体保有率 IASR Vol.22 No.12より抜粋

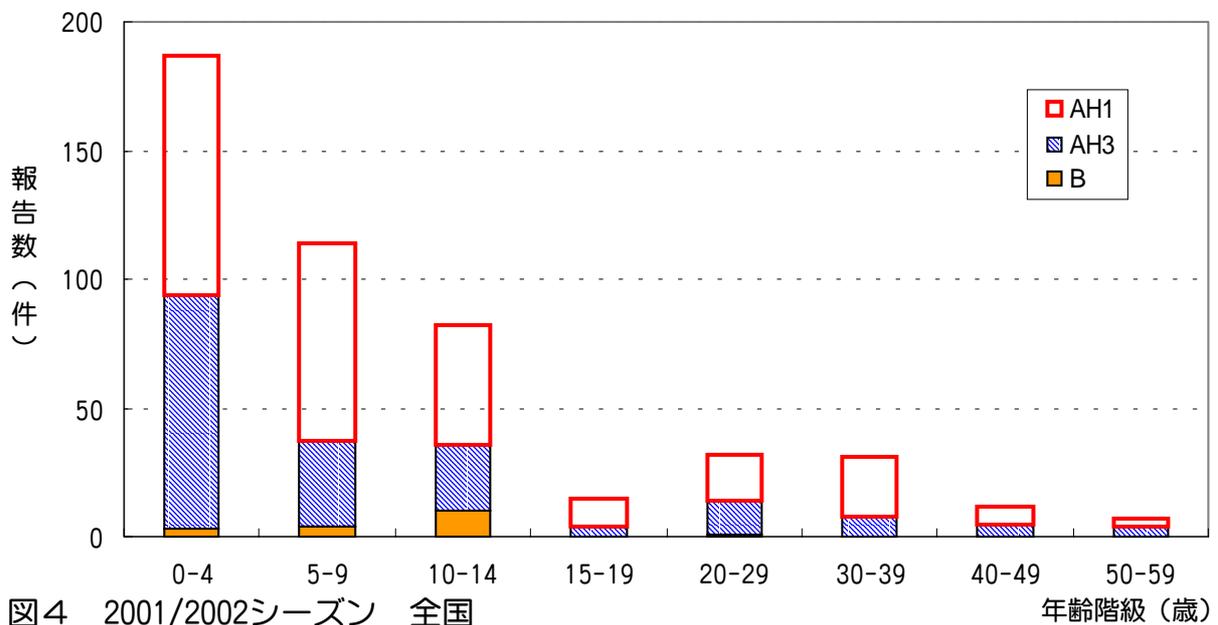


図4 2001/2002シーズン 全国 年齢階級別インフルエンザウイルス検出状況
60歳以上は検査実績なし